

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	女性保護受託事業費	会計	一般会計	事業No.	145	施策順No.	25-008
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-2-3-11-3		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	子育て支援課		
施策	25 共に歩む社会づくりの推進			事業期間	開始	21	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	一時保護所入所世帯						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		一時保護、緊急避難件数		3	6	8	2	
							0	
意図	安全な場所で支援を受けることができる。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	安全な場所で自立した人員	0	0	6	3	16	10	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	入所者全員が安全な場所へ避難でき、次の生活のステップに向けて自立できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> 母子生活支援施設(北方寮)を緊急一時保護、一時保護受託事業の指定施設とする。 市は身体的、精神的に暴力を受けてきた被害者の受入れ、安全及び衛生の確保並びにプライバシーの保護に配慮された生活場所の提供、入浴、被服及び日用品の提供。 併せて、暴力被害者の自立支援のための相談及び情報の提供。自立支援に関わる関係機関との連携を行う。 担当職員 北方寮 母子指導員、子育て支援課 女性相談員、家庭係職員 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1.緊急一時保護事業 保護者、同伴児 延べ27日		1世帯 2世帯
	2.一時保護事業 保護者 同伴児 延べ60日		
23年度実施計画	1.緊急一時保護事業 DV被害者2名×2000円×10日+同伴児3名×2000円×10日=100,000円		4世帯 4世帯
	2.一時保護事業 DV被害者3名×7650円×10日+同伴児6名×2,420円×10日=374,700円		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	(県)女性保護事業委託金(10/10)
	国庫支出金		0			
	県支出金		608	125	475	
	起債					
	その他					
一般財源						
計(A)		608	125	475		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			125			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 女性相談の充実を図ること。 DV被害者がどんな時でも安心して保護してもらえる体制づくり。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	全ての市民が互いに認め合い、尊重される。 男女が互いにパートナーとして生きられる社会を実現する。	施策の成果指標又はムトス指標	日常生活の中で人権を尊重して行動している人の割合 日常生活の中で人権を尊重意識を持っている人の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成20年度から事業開始。本事業がなかった時は、DV事例が発生した場合は、遠く長野市、松本市の施設へ保護せざるを得なかったが、この事業を開始したことで、飯田市北方寮で保護が可能となった。このことで、保護の緊急性が確保された。DV被害者が近場で、安心した避難先を見つけることができるようになった。		
	後期に向けた課題	DV避難者への十分な相談、自立支援計画が立案できる体制づくりが急務である。また母子生活支援施設を緊急避難先にするには、施設入所者と顔を合わすことがあるため、別に緊急避難専用のDVシェルターの確保を目指すことが大切。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	いつでも部屋を空けて、緊急時に入れる専用室の確保を行ってきた。また警察や他の福祉事務所からの要請に応じて、市役所直轄で、DV防止担当の携帯に連絡が入り、一時保護施設担当者へ依頼するシステムを作った。このことにより、スムーズな受入態勢が確保された。		
	後期に向けた課題	DV防止に関する地域のネットワークづくり		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	DVは突発的に起こり、そうした中でDV被害者の生命の安全を確保することが大切である。避難所での衣類、食材の提供について、無駄な支出を抑え、DV被害者の支援を行っている。		
	後期に向けた課題	弁当等を提供するのではなく、出来るだけ自炊が出来る環境を用意し、その中でコストを下げる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	DV支援は平等、公平に適切に行われた。		
	後期に向けた課題	DV被害者に対し、今後も平等、公平に支援していくが、預貯金や手持ち金等が多い方には扶助費は不要と考える。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①宗教法人等 直営施設の飯田市北方寮に他に利用者があり、入所が困難の場合は、宗教法人等の施設を利用している。 ②常日頃の連携		
	後期に向けた課題	①宗教法人等 直営施設の飯田市北方寮での一時保護をやめ、他の主体を中心に利用可能な体制づくり。		
全体を通じて	4年間の振り返り	DV被害者がどんな時でも安心して保護してもらえる体制が出来た。		
	後期に向けた課題	緊急避難、一時保護専用のDVシェルターの確保。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------